京都帝國大學新聞
第一種郵便物認可 第二種郵便物認可
定價 一部 一錢 一年 一圓 一年 一圓
發行所 京都帝國大學 學友會新聞部 電話 大阪 三二八〇
發行人 入山 [illegible]

共濟部の手で行ふ 全學生の生計調査

學生生活改善資料を目的として 來る十六日から一週間

[illegible]

評議員かはる

[illegible]

「滿洲問題」をかゝげ 活躍する國聯支部

講演、研究會等に全力を盡す

[illegible]

滿洲視察教授團

十五日のウラル丸で六氏 廿一日のウスリ丸で二氏

外一氏は朝鮮經由で

[illegible]

「飲酒」

[illegible]

照國丸で 五教授渡歐

[illegible]

在外研究員 今年は四名か

[illegible]

嚴肅に 行はれた宣誓式

[illegible]

滿洲國寫眞展覽會

當部からの依囑に對し滿洲國視察第一回教授團に同行した柳下大佐から其萬集にかゝるポスター・ビラ・寫眞約三百を提供されたので左の通り公開して一般の觀覽に供します

▼時 九日より三日間 [illegible]

▼所 本部舊館階上談話室

主催・京都帝國大學新聞

神戸正雄教授 名古屋で講演

[illegible]

矢野仁一教授 來る十三日辭任

[illegible]

あらゆる視點 から滿洲を！

トップをきるは瀧山與教授

金曜講演は六日から

[illegible]

佛教講演會

九日樂友會館で

[illegible]

滿洲ゆき有望

新政府の官公史を養成する 自治訓練所學生として

[illegible]

耳鼻科改築案 追加豫算提出

[illegible]

視察團來る

[illegible]

夏期講習會に 滿蒙講座開設

總長も演壇に立つ豫定

[illegible]

戸田正三教授 醫學部長に

[illegible]

農學部 選科へ

[illegible]

選科から編入

[illegible]

アカネ會員募集

[illegible]

近畿國語方言學會

[illegible]

學內辭令

[illegible]

教職員 轉居

[illegible]

風車

[illegible]

誌代未納の方に

[illegible]

新聞部會計係

現代法學全集

法科大學の開放 全卅九卷完成

末弘嚴太郎責任編輯

[illegible]

本全集內容

[illegible]

現代經濟學全集

既刊廿六册・日本經濟學界の絕巓!!

土方成美責任編輯

[illegible]

日本評論社

最新刊 文部省督學官 金子健二先生著

英語發達史

菊判八百五十頁・特製函入・定價金七圓・送料廿四錢

英語英文學界渇望の名著！千載不磨の大文字愈成!!

ローマ七賢物語 金子健二著 四六判 450 頁函入 ¥3.50 〒.12

英吉利 中世紀 物語詩集 金子健二著 四六判 270 頁函入 ¥2.50 〒.10

英國文學巡禮

小倉高商教授 濱林生之助著

近代英文學雜考

立教大學教授 富田彬著

BS 發兌 健文社

東京麴町區飯田町六丁目

矢野恒太監修

國勢グラフ

誰にも判る經濟現象の平易なる解說 簡明正確の圖表と數字

五月號要目

凸版 五十七個

統計 七十二表

東京・京橋・第一相互館 國勢社

20錢

宣誓式告辭

總長 新城新藏

新入學の學生諸君、本日茲に入學宣誓式を行ふに當り、一言諸君に告げて學式の意義を明かにしたいと思ひます。宣誓式は要するに一の儀式でありますが、これは決して空疎なる虚禮であつてはなりません。諸君は種々なる教育階段を經て、今や最高學府に入らんとするに當り、果して何を學ばんとするか、何のために學ばんとするか抑も大學の目的は如何、大學の本質は如何、私は諸君が入學の始めに於て深く思を是等の點に致し、十分なる覺悟を以て學に就かれんことを希望致します。又私は平素親しく諸君と接觸する機會があまり多くはないので、斯の如き機會に於て、例年略々同樣なることではあるが、常に考へてゐることを申述べて諸君の注意を新たにしたいと思ふのであります。

大學とは、小學に對して考へれば大人の學といふことであると思ひます。小學に於ては、一身を整へることを主とし、先人の經驗を傳へ受けて一人前の人間となることを學ぶのであるが、大學に於ては我々人類が祖先以來受けたる一切の經驗を整理し咀嚼して、これによりて後進の行くべき道を啓く…

[illegible]

滿洲國おみやげ話

新國家「滿洲」をみて歸つた諸教授のはなし――第一番に歸つた醫學部市河三祿教授（林學）の話は前號所載の通りであり、瀧山教授はあす會曜講演の壇上にたつことになつたが、本誌記者がきゝ得た諸先生のおみやげ話は大要左の通り

「胡砂ふく風に雄心をどる」

◇……新城總長談

私の出かけた趣旨は、あの樣な滿洲國の情勢については、これをよく觀察せしめて、立派な文化的意義を有する國にするために、我國として十分な援助をなさねばならぬ。今後の施設は産業開發のためには諸方面に亙り深い基礎的研究が必要である。人心の安定のためには一日も早く教育制度施設を確立せねばならぬと思つたからです。これ等の方面については、大學などが出來るだけの援助をなすべき地位にあると思ふので、第一回には五人、第二回には十人許りの教授に行つて貰ふことになつた。大體先に行かれた人の話により、新國家の要路の人々や、實力を擁つてゐる關東軍の人々の間でも、文化施設については、色々考慮をめぐらしてゐることを聞いたので少しも早く行つて、樣子を見、考へを述べて、大學としての力添へをしたいと思つて、急いで行つたのでした

私が飛行機で急いで行つた時の氣持は

君がため急ぐ心の一すぢに天かけりても行かんとぞ思ふ

要路の人々に遇つた時、日支人が一生懸命に緊張した氣持で居るのを見、軍人が必死の努力でやられたあとを、文の方面の人が是非手ぎはよく始末をせねばならぬと思つて

益雄がたてしいさほしいかで我あだにはせじと警ひけるかな

それからチチハル邊で、ひどい砂風をあびたので、その時

もろこしの胡砂ふく風にきおい立ちて國見をすれば雄心おどると詠みました

滿洲國との距離

をちゞめるプランはかうだ

工學部 瀧山教授談

三月十二日出發し、四月十五日歸學するまで、南は大連、錦州から北はハルビン、チチハルまで、滿洲國主要都市を歴訪し、汽車、飛行機による行程三千粁、その間面接した人は陸海軍首腦部、新政府要路の人々等二百名にのぼつたが、結局日本の沈滯萎靡な多勢の人々が彼方にゐる限り、滿洲國自體はどうなろうと、日本人は安心して働いてゆく事ができるのを確信した。專門上鐵道關係方面を調べたが、滿洲國内の交通路、及び我國と同國との交通關係については十分改良の餘地がある。今教習を出發し、羅津、延吉、敦化を經て、旣成線により新京に向ふ場合、船を一時間十四節、汽車を五十粁とすれば、新京へは一日と二十一時間、ハルビンへは二日と二時間で現在の神戸から大連までの約三日より早くなるわけだ。今羅津を中心にして、四百七十浬の半徑で圓を描けば、北は舟岡、新潟、伏木舞鶴、松江等はすべて同一線上にあるから、裏日本のすべての港から出ても同じ事になる、更に速度をもう少し早くして、船を二十節汽車を七十粁とすれば、裏日本のこれ等の諸港から新京までは一日と九時間で行ける、勿論その施設には相當の時日を要するが、之が實現の曉は、一週間もあれば十分新京まで旅行できる樣になり、日本と滿洲國との關係は頗る密接になるだらう。改良すべき點は滿洲國内にもあり、殊に張學良が計畫した滿鐵包圍線は、新國家の成立と共に全く一變した。就職問題も今の所まだ少し早い。今後一年程かゝつて實施計畫をたて、愈それに依つて色々な事業に着手した時が最も好い。日本からはサラリーマンが最も適してゐると思ふ。農業方面では日本人より朝鮮人の方がいいだらう。要するに鐵道の方面はもとより、行政の方面にも今後改善すべき幾多の點があるが、これらは日本と滿洲國との協力によつてのみ完全になされるだらう

鑛産資源は相當あるが採取方法を愼め

工學部 倉内教授談

滿蒙の鑛産資源は相當にあると噂されてゐるが、今のところ實地の調査が甚だ不十分である。私達が今度行つたのも、兵匪事件で現地に臨んで調査は出來なかつたが、相當に興味を覺えてかへつた、特に滿蒙鑛産資源の調査についてのオーソリチイ、アーネルト氏（ハルビン在住）に逢つて話をきいて來た、北滿の地の鑛産資源については部分的にはロシヤ人、支那人滿鐵のしらべて居るものもあるが全體としての學術的の調査のとぼしい處女地に近い天地であるから更に興味が深かい

資源の種類にも色々のものもあるが、主として石炭、金、鐵である、金は殊に砂金として黑龍江流域に多く、吉林省にも相當にある、現在ではこれが採取に對する熱が大いに起りつゝあり、アーネルト氏の計算によると大體三十八百佛噸あるといふから、相當巨額に上る金額である、現在でも少量は開發されてゐるが、今後如何に開發するか、問題である

これ等の資源の開發は希望する處であるが、あまり急いでやることはよくない、元來鑛産資源は、動植物とちがつて一度取れば再び取れぬものであるから、萬全をつくして愼重にやり、鑛利を殘すやうな採取方法は戒むべきである、これがためには早く調査及び計畫が完成することが必要である、又錦州熱河地方にかけても相當に有望な色々の鑛種がある、石炭、金銀、銅、鉛、亞鉛、マンガン及び其他油頁岩等の非金屬物もあるらしい、目下匪賊横行で此地の調査は危險であるがこれが落着と同時にこれも開發されるだろう、特にこの地は氣候もよいから、要するに、滿蒙の鑛産資源は出來るだけ早く實地調査をなしうるやうに事態がおちつくことを希望する

滿蒙行は六回目だ

移民はさう單純には行かぬ

農學部 菊池教授談

滿蒙行きはこれで六回目だ、對移民問題に關しても關東廳の招聘で、以前視察して居る。今度の滿で特に氣づいたことは内地人移住が内地で考へられて居る樣に單純なものでなく、非常な困難あると云ふことで、それは先づ馬賊だ、五十家族づゝ移民の集團を作つて之に備へると云ふが、それだけの訓練を經て居なければ無理な話で、たちまちにして馬賊にやられてしまふ、氣候も零下三十何度と云はれてゐるが實際はそれ以上で、地下六尺も凍つてゐる、雪が降ればそんなでもないのだが、降らない、乾燥して雨量が少いから雨の多い日本の農民は、雨を考慮に入れないから失敗する事になる作物も限られて居り、今問題になつて居る滿洲國は北緯四二度半以北で、此線を境に農産物が異つて來て、四十一度以南で出來る果物特に、苹果、梨、葡萄、杏等、又棉、上等の煙草等は出來ないで、小麥、ポップ等の優秀なもの、大豆、高粱、粟が主産物である、從つて移住民が内地の樣な考へで、作物を何んでも作らうとしても駄目である、又内地の如き耕作法では收穫は得られない、支那には數千年の歴史があり、氣候風土に適した農法を無視する事は出來ない。

[illegible]

元來滿洲は興安嶺を挾んで、ゴビの大沙漠から草原帶、ヒマラヤ山系をひかれたロシアの實庫、高梁桑の樣に、奉天省の北部は緬羊牛馬の牧畜に適した草原帶であり吉林省全體は雨量多く河川の分布あり豐富な森林地帶となつて北進するに從つて益々肥沃となり、新滿洲國の實庫である、此處に移住して、在來の移民の如き濡れ手に栗の考へで行つては、たちまちに支那人に開拓した處を奪はれる樣になる、聞く處によると、京都から千組の移住申込みがあるそうだが、一般に考へられてゐる樣な樂な生活は出來ないと言ふ事をよく知つてもらひたいと思ふ

新國家の現在と將來に十分の認識を持て

配屬將校 柳下大佐談

今度自分が本學滿洲視察團に加はつて渡滿した時の任務は　陸軍省の方からの命令にもよるけれども主として、出先きの我軍部の人々と、當視察團との仲介を務めるやうなものであつた、自分は今迄も支那へは度々訪れた事があり、北平、漢口、天津等はよく知つてゐる、殊に天津には二ケ年間在住してゐた關係上、現滿洲國の一部の大官連とは親しく交際し、大立物の臧式毅や、近頃顧維鈞の入滿問題で盛んに頑張つてゐた謝介石等はよく知つてゐたため、今度の視察では彼我兩面より、色々と新國家の狀態を聽取出來て好都合であつた、滯滿中最も驚嘆し、心強く感じたのは、約二十萬の在滿邦人が非常な熱意を以て、駐在の軍部と一致團結して、國事に當つてゐる事で、是は實際其地に行つたものでなければ内地では一寸想像の出來ない點である、滿洲國は成立未だ日淺く、云はゞ、今搖籃の中にあり、立派な發育を遂げる迄には、今後幾多の盤根錯節は免れ得ざる處で、且つ新國家の要路に立つ人々は、我國の援助を切望してゐるのであるから、たとへ新國家の完成に至る相當永い期間の中には、日本に取つては、時に之を放擲したいやうな事もあらうと

[illegible]

所謂自由制度とは

宮本法學部長

（承前）大學は啻に學術研究の場所たるに止まらずして、更に「人格陶冶」の場所であることも亦、諸君入學の當初において、充分に辨へなければならないことである。文化の發達した現今の社會においては、大學に學ばずして而も能く學士と同等、又はより以上の智識を獲得するの手段と機會とに乏しくない、從つて學士にあらざる學士は無數にある、誰であつたか「今日學士の肩書など振り廻す者は馬鹿か狂人だ」と謂つたことを曾て聽いたことがあるが、それは必しも不當な言ではない、蓋し知識の評價としての「學士」は、今日は低下して到底昔日の比ではないからである、然し諸君失望しなくてくるのである、否そう謂はれる樣にならなければならないのであつて、大學卒業生は如何なる職業に從事すると、如何なる地位にあるとを問はず、やはり何となくレフワインされてゐると謂はれる樣にならねばならない。故に大學令第一條においても、大學は「學術蘊奧」を攻究することと、併せて「人格の陶冶」を目的とすることを、明にしてゐるのであつて我法學部に於て法學會及び有信會を組織し、又大學全般としては學友會を設けてゐるのは、學術研究に資すると共に　他面

「人格陶冶」

の機會を提供せんが爲めに外ならないのである。然るに

[illegible]

要するに智識を研き、人格を築き上げることが、諸君の大學入學の目的でなければならないのであるが、大學は、殊に我法學部は、之が爲めに諸君を强制しないのであるから、要は常に「自らを信じ」て自主的に行動すべきである。大學に入つて何となく取止めがなく

◇――海の彼方から――◇

コロムビア大學騷動のシーイン

□■母校像の前で演説する學生（第三面記事參照）■□

肩書が光を

放つ時期が近き將來に來るに違いないと思ふ。獨乙や英國に於ては既に業に其時代が到來して「やはりアカデミカーでなければ駄目だ」と、世間で謂ふ樣になつて居るとのことである。それは知識的には所謂「才子」として腕の利く人でも、人格が之に伴つてゐない者は駄目だと謂ふ意味に外ならないのである。我國は現今過渡時代であるから、未だそこ迄行つてゐない、從つて世間では大學卒業生を昔日の如くに歡迎してはくれないけれども、か樣な狀態を數年續けるならば、必らずやその弊害に堪へなくなつて、やはり「學士がよい」と謂ふことになるに違ひない、つまり大學教育を受けた者は、之を受けない者に比して、どことなく「御品」がある「人柄」がよいと謂ふことにはならない、再び「學士」の

近時是等の各種團體を、特殊な思想的見地に於てのみ批判し、その無用を絶叫し、甚しきは新入學生に向つて、入會拒否又は會費不納を勸告する者あるに至つては、これ又大學の何たるかを解せざる者である。勿論之等團體に於ける施設の不備は、之を改善しなければならないが、此種のものが絶對に無用だとは考へられない、諸君は徒らに他人の言に雷同することなく、自ら充分に考察して正しい道に進むことを希望する。有信會などの會合に於て「十人や十五人の者が、演壇に立つて饒舌つたとて或は一同で會食したとて何の懇親か」など謂ふ者があるのを聽くが、これなどは所謂「懇親」の意義を解せざる者である、法學部千七百の學生が一堂に會した場合に二、三の友人とカフエーでテーブルを挾んで談笑するが如き意味の「懇親」が行はれないことは、當

淋しいと思

ふならば、その時こそ正に大に反省し自覺すべきである。我國教育制度の實際を見れば、諸君は多年强制に馴れて反省に疎く又自覺を忘れ易い傾向にあるが故に、一度大學の如き自由の天地に來ると、賴るべきものを失つた樣に感じて、寂寥の感に堪へないといつた狀態に陷り易いのであるが、そこにこそ自由の樂園があるのであつて、大學生活を如何に生活するかは、一に諸君自身の決定に俟たねばならないのである。大學生活は「下宿屋から教室へ」の道程に盡きるとかこつが如きは、自由の天地に處すべきの道を知らざるに起因するものであつて、その責は自己に歸すべきである。法學部學生にして講義に出席せず、講義録によつて受驗し、得々然たる者なきろ誇りとして、これを以て寧

[illegible]

講演部の立場に就て

牧健二

學友會の各部の中、近來最も問題を生んだ者は講演部である。講演部の事業は、學生が雄辯によつて自己の思想を發表することもあり、名士を招聘して其意見を聞くこともあるが、思想を發表して學生大衆によびかける機關となつてゐるので、今日我國の最も大きな問題の一つが思想問題であり、學生の最も大きな關心事も亦思想に係つてゐる以上、講演部の行動が學内並に世上の注意の的となり易かつたのも、當然のことであつたと言はねばならぬ。

爰に我が講演部の行動に就ては從來一種の眼を以て見らるゝやうになつてゐることは、蔽ひ難い事實だと言へやう。それは此部が一定の色彩を有した言論を發表することに偏してゐて、大學や社會に對して兎角物議の種をまき易い厄介な代物だと言ふが如き感想をいだかしめてゐると思はれうることである。そして此事に就ては社會の俗見―學問の眞の發達の爲には屢々多大の障害を與ふる低級なる俗見に災ひされて、此部の行動が事實以上に惡く見られてゐる所も隨分あることを認めざるを得ないが、併し又、講演部が近來甚だ不振となつて見方によつては殆んど機能を失つたかの如く見ゆるやうになつた原因の一つが、實は右の問題に關係して居り、講演部自體の態度に就ても反省されて然るべきものがあると考へられる。

講演部の問題は決して單純に京大の學友會の問題ではなく、廣く日本の大學生活に關係した問題でもある。近來の日本の大學生が辿れる思想の傾向は又我が講演部に反映したものとなつて居る。尖端を切つて動く新らしい思想の爲に若き學徒が動かされざるを得ない事情も固より存在するが茲に大學生の生活である以上は大學に於ける研究の自由てふ一個の理想が不斷につきまとつてゐるのを見逃し難い。大學の自由は大學生活の一切の問題を考ふるに就て常に引合に出される標語であるが、講演部の立場を考へるに就ても第一義として取出されねばならぬ批判の準的である。思想其者は時代の動きによつて、或は左傾し或は右傾するであらうが、大學生に關する限り思想の自由と言ふことを前提として問題を冷靜に思考し、卒直に發表して相互に思想を交換し、反省に反省を積み研究に研究を重ねるのが、大學生の態度でなければならぬと思ふ。

所で大學生の自由研究は、勿論單純な觀念上の存在ではなく、國法上に其根據を有つた者となつて居る。大學令の第一條により、大學が學術の蘊奥を攻究するを以て目的とする以上は、研究の自由は特に大學の爲に保證されてゐなければならぬが、それは國家と言ふ

[illegible]

立場を忘れてはならぬと言ふことになつて居るから、其處に國家を尊重すべきことに就ての大學の自由の限界がある。尤もかくの如き自由と其限界とに就ては考へ方もあらう。法の解釋も一樣ではあり得ぬであらうが、大學の立場から言へば、學術の蘊奥を究めると言ふことの方が本質的であるのだから、國家生活の許す限り大學の自由を保持して失はざらんことを努めるのが、大學の本分だと言ふべきである。此點に於ては學の自由の爲の誠實なる鬪士佐々木教授の如き學者を有するのは、我大學の一個の誇りだ。

さて顧みて我が講演部を語れば、矢張問題は學園の自由だ。そして卑見に依れば講演部の難問題は外に在らずして寧ろ中にある。對外的には、思想の内容が俗見には一應過激に見ゆる場合も無いではなかつたであらうが、其が大學の職分に反せざる限りは必ずしも之を咎むることを得ない。講演部の缺陷は其よりも寧ろ次の點にあつた即ち最近部の態度が慣習的に固定し來り、思想上或一個の方向に偏して終つた結果、部自身が其拘束を受けて動きがとれなくなり、學生大衆の關心からも遠ざかるやうになつたと言ふ感想は、如何にも故に、特に自由に一方の思想に深入りすることも出來たのであるが却つて今や其れが災ひとなつた。部の態度はあくまで大學の自由を維持してゐるのが望ましいのである自由に反したるが如き態度によつて出でたことが、他の社會に於けるとは異なりて、大學なるが故に部自身に災ひすることゝなつたと言ひ得やう。

併し事の反面は直に學生大衆の問題でもある。現代の世局は大學生の眞摯なる考慮を促してゐる者が多い。稀有の軍大事に遭遇してゐるのだから言論も其だけ起るべきだ。固より學術の專門に亘ることの如きも、綜合大學の特色を發揮しやうとすれば、講演部の如きは須らく利用さるべき機關である。學生の雄辯だからと言つて相手にしないやうでは、講演部の振ふ理由もなく、又それが如何樣になろうと、之を兎や角と言へた義理でもないのである。學生の辯論であるから價値がある。

講演部がある以上は、學生諸君がよく之を利用して相互の啓發が行はれるやうにと希望せざるを得ない。講演部は此度委員の改選の爲に其希望者を募つた結果法學部三回生脇山良雄君、同二回生瓊原欣麻君、同池田元治君文學部二回生森下春一君、經濟學部三回生村上滿男君等は既に正規の手續を經て委員となられ、また三名ばかり

[illegible]

多數の會員

が共に旅行するもよし、講習會を開くもよし、そこには平生とは違つたアトモスフエーヤがあるのは、それを現實に書いたものであり、古き支那の經書に「大學之道、在明明德、在親民、

[illegible]

なほ最後に一言申し加へます。前總長荒木博士が十數年に亘り宣誓式の度毎に述べられたる告辭を「勸學語」と名付け一昨年出版しました（圖書館にも辨部か備へ附けてあると思ひます）學者の心得を丁寧懇切に説かれたものであります。熟讀玩味せられたならば益する所少くないであらうと思ひます。

若し教場に

出でゝこの貴重なる何物かを拾ひ得なかつたとすれば、それは大學の罪にあらずして、諸君自らの注意の足らざるが爲めである。

繰返して言ふ「反省と自覺」これは諸君の入學に際して大學の希望、否な要求するところのものである（完）

國の成立と日米關係の將來」のうち本文第一段廿行目手撫けは手懷けの、四十行目國難は困難の、第二段廿一行目卒直は率直の、第五段十四行目經路は徑路の、同十六行目莫然は漠然のいづれも誤り、その他印刷工場に於ける採字上の慣習から其をその、之をこれ、言ひをいひ、伺ほをなほ、假令をたとへ、且つをかつ、聽てをやがて、所謂をいはゆる、斯かるをかゝる等等幾多の誤植をなし、あたら金玉の文字をきずつけたることを筆者に謝す

であろうことは、余の斷言して憚らざる所である、諸君

としては公平な立場に立ち、大學の自由なる言論界の爲に貢献さることであらうから、大に講演部の前途を期待し、敎官及び學生諸氏の援助を切望する次第である。

新刊紹介

◇標準フランス語講座（上、中、下）東京外國語學校（アテネ・フランセ共同編輯）フランス語のイロハから初め、從來の書物が散漫に流れる弊を考慮して簡潔、正確短期をモットーとして書かれたもの…

[illegible]

雜誌

▲ドルメン（創刊號）本誌は人類學、考古學、民俗學竝にその他の諸科學に關する研究を目的として…

[illegible]

同志社大學教授 Ph.D. 古屋美貞著（最新刊）

米國經濟學の史的發展

菊版クロース裝七百頁 定價金四圓八拾錢 送料金參拾參錢

米本國に於てすら未だ成らざる劃期的快著完成さる

界其の抱容する巨大なる資源の上に樹立されたる資本主義經濟の完成に依りて、今や正に世界經濟界を獨裁するの威ある米國民の巨富の性質及原因を解せんとするには其の經濟史のみを以てしては其の達成を知るに足らず。…

同志社大學教授 Ph.D. 古屋美貞著（最新刊）

經濟學原論

菊版クロース裝四百五十頁 定價金參圓貳拾錢 送料金參拾參錢

百年不滅の名著重版成る

大阪商大教授 經濟學博士 田崎仁義著

王道天下之研究

「支那古代政治思想及制度」

普及版菊判七〇〇頁 總クロース上製背金文字函入 定價金四圓五拾錢 送料金參拾參錢

大阪商大教授 經濟學博士 田崎仁義著

增補 支那古代 經濟思想及制度

普及版菊版六百四十頁 總クロース上製背金文字函入 定價金四圓 送料金參拾四錢

エデュアルド・シュプランガー原著 廣島高師教授 文學士 辻幸三郎譯

文化哲學概論

（生の形式）

普及版菊版六百四十頁 總クロース上製背金文字函入 定價金四圓 送料金貳拾七錢

法學博士 故 雉本朗造著

民事訴訟論文集

普及版菊判一四五〇頁 總クロース背金文字函入 定價金五圓 送料金四拾五錢

『新刊の栞』贈呈

京都市下京區西洞院七條南

內外出版印刷株式會社

振替口座 京都 三三九三一番 大阪 三三二五一番

創立紀念日を祝ぐ
大園遊會の催
來る十五日農學部大運動場で
祝賀式と共に擧行

本學創立記念日たる六月八日當日は丁度日曜日に當るので、之を機會に學内一般の懇親を圖る爲、左の如き園遊會を催すことゝなつた。

記

一、日時　六月十五日（雨天の場合は翌日）午前十時より

二、場所　農學部大運動場

三、内容　祝賀式（午前十時より）

▽總長告辭　▽來賓祝辭　▽學生代表祝辭　▽教員代表祝辭　▽學生代表祝辭　▽閉會の辭

引換券□（一人十錢）

▽ダイアトラ　▽ダイアトラ　▽ダイアトラ

余興□

學生音樂會——ブランチ座談會

學生食堂——ブランチ行悩む

學校がはと意見合はず

食堂ブランチ

摸擬店□

祝賀式□

引換券□

今春は見合せ
オリンピック代表決定の
チャレンヂレース參加のため

新線の瀬田川に覇を競ふ四クルー
醫・農・工・理何れも猛者揃ひ

商大に敗る
差二艇身で

學生課の監督下に
賣店近く開業
地下室食堂學生食堂跡で

授業料成績よし
近年珍らしい現象

新入舍生きまる
本學部構内で本日四十二名の

千人突破
學友會費も

汎有信會大會は
今秋ひらく
其他有信會の諸事業きまる

求職ポスター圖案募集
共濟部紹介係で

新案金儲
保險會社から申込

園遊會に禁酒を唱へる
青柳柔道會長

ソフト（全店品一割引）

今年流行の高級品を豊富に取揃へ皆様への御來店に備へて居ります

京都帝大共濟部指定

壹圓ヨリ各種

高級學生帽製造

山本帽子店

京都市熊野神社東太上町ル東側

ファッシズム運動論

九州帝大　今中次麿著　新刊　四六判二三〇頁　定價一五錢　郵税四錢

ファッシズムに關する科學書始めて出づ

滿洲事變を契機として擡頭するに至つた國家主義運動の大きなうねりとうつるであらう。これが眞の國家主義運動であるか、それとも單なる軍閥の政治的野心の發露であるかは、今後の問題である。

ファッシズムとは何か？それは從來主張されて來た國家主義運動とは如何なる點に於て異るのか？これらは今後の國家主義運動を理解するに必要な問題である。

本書はこれらの問題に對して、從來の國家主義運動と比較しつゝ、ファッシズムの本質を明かにしたものである。

獨逸行學生の費用は
佳友から
獨奧學會座談會

婦人の見學團
學生食堂を觀察

馬術部新入募集

籠球部優勝す
全關西選手權大會

館長代理は
山鹿司書官

神商・關學に苦戰の庭球
關西學聯開幕

地質鑛物教室復舊成る

經濟史研究

獨裁政治學概論　四六判　四〇〇頁

第一卷　現代獨裁政治史總說　四六判　四〇〇頁

第二卷　民族的社會主義論　五月上旬發行

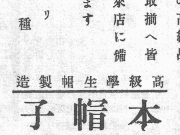
大學ノートなら
信用ある鳩居堂の大學ノートを

最上のフールスキャップ紙を用ひてペンの走りも申し分なく鳩居堂が帝大への寒仕品として最も安價なのが何よりです。又、御希望により、更に廉價の品をも發賣する筈になりました。

京大共濟部の御指定により帝大構内舊本館に出張

鳩居堂　寺町姉小路角　電話上二九・二一〇

トフの本山



京都帝大共濟部指定

ソフト（全店品一割引）

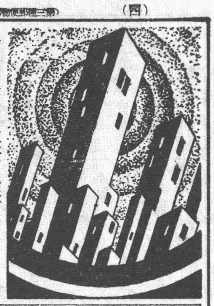
今年流行の高級品を豊富に取揃へ皆様への御來店に備へて居ります

壹圓ヨリ各種

高級學生帽製造

山本帽子店

京都市熊野神社東太上町ル東側



西田直二郎教授の大著『日本文化史序説』

平泉　澄

[illegible]

指輪

阿部知二

[illegible]

春靈

阪中誠

1

[illegible]

2

[illegible]

3

[illegible]

4

[illegible]

5

[illegible]

「ブックレビュウ」のことなど

FOLIO

[illegible]

生存の闘争

[illegible]

APERITIF

[illegible]

法隆寺行

早瀬　譲

[illegible]

國史學科生見學の旅

六日夜越前へ

[illegible]

新刊紹介

[illegible]

語學講習
[illegible]
歐亞斯文學會
[illegible]
英獨文科講
[illegible]
法學科目
[illegible]
佐伯寫眞館
[illegible]
都富士
東山
銀沙灘
[illegible]
鎰屋政秋
[illegible]
H.M.V.
ヴィクター
コロムビア
パーロホン
レコード
コダマ
京都河原町三條下ル西側
京都市河原町三條ヒル西側
敬中竹士醫學
電話上(3)四三五番
[illegible]
Columbia
[illegible]
電話上五六九
[illegible]
鎰屋政秋
[illegible]
國家試驗
高文・普文
[illegible]
育成洞
[illegible]
小山齒科醫院
小山正光
[illegible]
Watches & eye-glasses;
Selling and Repairing
京大共濟部指定
三光堂
[illegible]
性病專門
Tripper, Syphilis, Schanker etc.
早川診療所
[illegible]
洋樂レコードの店
コダマ
[illegible]
クスリ
東山藥局
[illegible]
洋服は
[illegible]
有本
[illegible]
BAR AND TEA
SPARROW